

「心豊かで思いやりのある子」を育てるために

自分の生き方を考える道徳授業～子どもの姿から考える～

今年度も本校では学校教育目標の「心豊かで思いやりのある子」を重点項目におき、子どもたちの非認知能力の向上を目指し、様々な活動に取り組んできました。道徳科の授業では、年間35時間(低学年は34時間)の中で、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度を育てるために、正直・誠実、親切・思いやり、生命の尊さ等の22個(低学年は19、中学年は20)の道徳的な内容項目をもとに授業を進めています。

Question1 授業で大切にしていることは何ですか?

発達段階に応じて、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」を目指し、授業改善を図っています。特に、

- ①よりよく生きるために大切なことであると理解できるようにすること(価値理解)
 - ②大切であってもなかなか実現できない人間の弱さを理解できるようにすること(人間理解)
 - ③感じ方や考え方は一つではなく、多様であるということ的前提として理解できるようにすること(他者理解)
- を意識して授業に取り組むことで「特定の価値観を押し付けたり、言われたままに行動するように指導したりする道徳」からの質的な転換を目指しています。

Question2 普段の子どもたちの様子は?どんな発言をしたり、考えをもっていたりするのですか?

12月に実践した内容項目「礼儀」の授業の様子を紹介します。

テーマ:心を伝える言葉

Q あいさつって本当に必要?

「あいさつがないと気持ちが伝わらない。」「ないと嬉しくないし、毎日が楽しくない。」「クラスの子どもたち全員が口をそろえて「必要だ」と話していました。」


お話:身近な祖母に「ありがとう」が言えなかったひろしが「有り難し」の意味を知って変わっていくというお話を基に考えました。

Q なぜおばあちゃんにありがとうと伝えられなかったの?

「照れくさい」「いつでも言えるからいいかな」「僕もなかなかごめんねって言えない時がある」「家族にも伝えたいという気持ちはあるけど、当たり前になっているから言えなかった」とひろしの心を考えながら、自分たちの生活を振り返る発言も多く出ました。

最後には・・・

それでも伝えられると自分も相手も良い気持ちになることや自然と伝えるようになりたいと学習を振り返っていました。



2月10日(月)に予定されている道徳授業地区公開講座では「命の尊さ」をテーマに全学年が授業に取り組みます。道徳について一緒に考える機会にさせていただきたいと思ます。

(道徳科・人権教育推進部 山本貴司 伊丹彩)

2年生	種別	目標
1	01_基本操作	クローマックの側面のボタンで音量を調整することができる。
2	01_基本操作	タッチパッドでカーソルを動かすことができる。
3	01_基本操作	タッチパッドでドラッグ&ドロップをすることができる。
4	01_基本操作	全面面表示キーで全面モードにすることができる。
5	01_基本操作	文字列やファイル等を2本指でタップし、メニューを表示することができる。
6	01_基本操作	検索キー(虫眼鏡マーク)を押し、ランチャーやアプリの一覧を表示することができる。
7	01_基本操作	音量調節キーで音量の調節やミュート操作をすることができる。
8	01_基本操作	明るさ調節キーで明るさを調節することができる。
9	01_基本操作	更新キーで表示ページを再読み込みすることができる。
10	01_基本操作	罫線に添付されているファイルやリンクを縮小することができる。
11	07_ジャムボード	付箋を貼り、タップで移動させることができる。
12	07_ジャムボード	付箋の色や大きさを変更することができる。
13	09_ミーティング	「Meet」パネル内の「参加」ボタンからクラスルームのMeetに参加することができる。
14	09_ミーティング	ミーティングに参加したり、退出したりすることができる。
15	08_ミーティング	音声と映像のオンオフ操作ができる。
16	04_フォーム	フォームに回答することができる。

情報活用能力の育成に向けて

情報活用能力の系統的指導を行っています

本校では、現代社会で必要とされている「情報活用能力」を子どもたちに育てていくために、文部科学省の「情報活用能力の体系表」をもとにチェックシートを作成しました。このチェックシートを用いて、学年ごとに発達段階に応じた指導内容を明確化し、段階的かつ効果的な学びに取り組んでいます。さらに、教員間での連携を深めるため、各学年の取り組み内容や達成状況を定期的に確認し、チェックシートを活用しながら指導の系統性を保つよう努めています。このプロセスにより、全ての学年で子どもたちがバランスよく段階的に情報活用能力を伸ばせるよう指導しています。

【学年ごとの指導内容例】

- ・低学年：電源・音量などの基本機能、タッチパッドを用いた基本操作
- ・中学年：ローマ字タイピング、インターネットでの情報検索
- ・高学年：ドキュメント・スライド・スプレッドシート等を用いて情報をまとめる

(GIGA・ICT教育推進部 滝沢幸一 清水希巳 北島真理亜)

5年生	種別	目標
1	01_基本操作	「選択」の操作ができる。「shift+矢印」
2	01_基本操作	「全選択」の操作ができる。「ctrl+a」
3	01_基本操作	「コピー」の操作ができる。「ctrl+c」
4	01_基本操作	「貼り付け(ペースト)」の操作ができる。「ctrl+v」
5	01_基本操作	「切り取り(カット)」の操作ができる。「ctrl+x」
6	01_基本操作	「一つ前に戻る」の操作ができる。「ctrl+z」
7	01_基本操作	「新しいタブを開く」の操作ができる。「ctrl+n」
8	01_基本操作	「現在のタブを閉じる」の操作ができる。「ctrl+w」
9	01_基本操作	ファイル他を人と共有し、共同編集することができる。
10	01_基本操作	ファイルの名称を変更することができる。
11	04_ドキュメント	表を挿入することができる。
12	05_スプレッドシート	1マスのことを「セル」と呼ぶことを理解している。
13	05_スプレッドシート	グラフを挿入することができる。
14	05_スプレッドシート	情報やデータを収集し、1行ずつ記録することができる。
15	07_ジャムボード	フレームに背景画像を設定することができる。
16	08_ドライブ	ファイルを指定の場所に移動することができる。フォルダを作成することができる。
17	08_ドライブ	フォルダにファイルをアップロードすることができる。
18	08_ドライブ	検索ボックスから特定の場所を検索することができる。

Let's enjoy English!!

～楽しみながら、自分の思いを伝えよう～

楽しみながら英語に親しむ

授業で学習した単語やフレーズは、①しっかりと聞く②たくさん声に出して試みるのが大切です。英語が好きなお子ももちろん、最初は恥ずかしがっていた子どもたちも、楽しいActivityを通して、ねらいとしている単語やフレーズをどんどん声に出していきます。自分の言葉が相手に伝わる瞬間はとても嬉しいものです。これからも、楽しみながら、英語に親しめる活動を多く取り入れていきます。



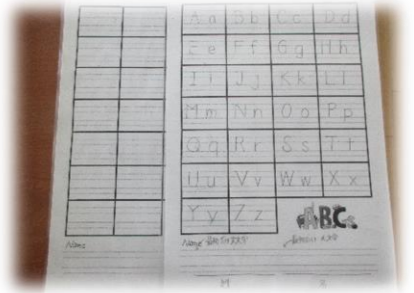
自分の思いや考えを伝える

高学年になると、単元の最後に Speaking test を行うことがあります。学習した単語やフレーズを使いながら、ALTや担任、友達の前でスピーチをします。コミュニケーションは、相手に自分の思いが伝わるのが大切です。話し方に強弱をつけたり、ジェスチャーをつけたりと、自分の考えたスピーチが、より相手に伝わるために一生懸命に工夫する様子が見られます。



アルファベットや英単語が書けるように

中学生になるまでに、4線の上に正しくアルファベットが書けることを目安にしています。子どもたちの実態に応じて、なぞり書きをしたり、写し書きをしたり、無理なく継続的にできるような取り組みを行っています。



(外国語活動推進部 西川千尋 渡辺拓己)